

I 実践

1 実践テーマ

自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる生徒の育成

2 活動目標

- (1) 人間の尊さを理解し、差別や偏見のない明るい生活が送れるようにする。
- (2) 人権感覚や人権意識を高め、差別や偏見をなくし、誰もが生きがいのある生活を送ることの大切さを理解し、認識できるようにする。

3 実践内容

(1) 学校教育全体を通した実践

- ア 生徒会や JRC 委員会を中心に、「朝のあいさつ運動」や「さわやかマナーアップあいさつ運動」を、1年間通して行った。生徒同士だけでなく、地域の人々に率先してあいさつをすることで地域の人々と豊かな人間関係を形成する機会とした。(写真Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)
- イ 人権尊重のポスターを昇降口の廊下等の生徒の目に入りやすい場所に掲示し、人権意識の啓発を図った。
- ウ 人権について考える機会として夏休みに人権作文や書道コンクール等の募集をした。
- エ Q・U テストの結果を分析することで、教師が個に応じたきめ細かい指導・助言を行った。また、毎月の生活アンケートでいじめや学校生活に関する悩み等を把握し、学年間や他学年での共通理解を図った。
- オ 6月と10月にボランティア活動の一貫として宮田川清掃を行った。2回とも、多くの生徒が参加し、熱心に取り組むことができた。その他にも「中小路クリーンアップ作戦」や「げんきっ子体験村」などの学区ボランティア活動を通して、奉仕する心や協力し合う態度を養う機会となった。(写真Ⅳ)
- カ 3年生を対象に「命の教室」を実施した。講師の先生を招き、生命の誕生や、性感染症についての話、これからの自己生き方について講話をいただいた。(写真Ⅴ、Ⅵ)

Ⅰ



Ⅱ



Ⅲ



Ⅳ



Ⅴ



Ⅵ



(2) 授業における実践 (学級活動)

ア題材 「男女相互の理解と協力」

イねらい 生命誕生のメカニズムを知り、その素晴らしさを通して、自他の生命の尊さに気付くことができる。

ウ内容 受精から出産までの仕組みを DVD で視聴した後、妊婦の疑似体験や赤ちゃん人形の抱っこ体験を行う。その後性教育用図書や育児日記、アルバム等を活用し、かけがえのない命の誕生についてグループで意見交換を行い、男女が協力していくためには一人一人がどのような点に気をつければよいのか話し合う。

エ活動の様子

体験活動では、始めは恥ずかしさや緊張もあり、やや消極的になっていましたが、妊婦体験ジャケットを着用して重さを体験することで、「赤ちゃんがいるってすごい。」と、命の重みを実感していました。また、話し合い活動では、「この世に生まれてきたことへの感謝の気持ちをもつことができた。」「給食当番や清掃活動など、学校生活でできることを進んで行っていこう。」など、学校生活における具体的な場面についても目を向けているグループも見られた。



4 成果

教育活動全体を通して人権意識の育成を図ってきた。あいさつ運動により、教師と生徒間だけでなく、生徒同士でもあいさつをする姿が増え、笑顔であいさつができる生徒が増えてきた。授業に実践では、道徳や学級活動、社会科などを通して、人権に対する知識や理解に努めることができた。また、各教科で話し合い活動を取り入れることによって、自分の人権に対する考えを深め、周囲の思いや考えを知り、認め合うよい機会となった。

II 今後の課題

あいさつ運動を通して、4月当初よりも進んであいさつや返事を行うことができる生徒が増えてきた。また、学区内のボランティア活動に積極的に参加することで、地域の人々との絆を深め、地域に住む一人の人間としての自覚を高めるためのよい機会となっている。今後も継続して活動続け、自分や他者を思いやる態度を育んでいきたい。